

# 安全データシート

作成日 1999年 8月13日

改訂日 2020年 1月 7日 1/5頁

SDS No.1021-34045

## 1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : パラコート  
提供者名 : ジーエルサイエンス株式会社  
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F  
電話番号 : 03-5323-6611  
FAX番号 : 03-5323-6622  
製品コード : 1021-34045  
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)  
整理番号(SDS No.) : 1021-34045  
推奨用途 : 標準物質(日本産業規格(JIS)Q0030に定めるもの)  
使用上の制限 : 試験・研究用

## 2 危険有害性の要約

GHS分類 : 急性毒性(経口) : 区分3  
急性毒性(経皮) : 区分2  
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) : 区分1  
皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 区分2  
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分2  
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1(肺、腎臓、肝臓)  
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分2(肺)  
水生環境有害性(急性) : 区分1  
水生環境有害性(長期間) : 区分1

GHSラベル要素 :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :

飲み込むと有毒  
皮膚に接触すると生命に危険  
吸入すると生命に危険(粉じん、ミスト)  
皮膚刺激  
強い眼刺激  
臓器の障害(肺、腎臓、肝臓)  
長期にわたるまたは反復暴露による臓器の障害のおそれ(肺)  
水生生物に非常に強い毒性  
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

[安全対策]

: 粉じん/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
眼、皮膚、衣類につけないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。  
【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。  
環境への放出を避けること。

[応急措置]

: 飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。  
皮膚に付着した場合:直ちに医師に連絡すること。多量の水と石鹼で洗うこと。  
皮膚刺激が生じた場合:医師の手当てを受けること。  
汚染された衣類を直ちにすべて脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。  
吸入した場合:直ちに医師に連絡すること。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の手当てを受けること。

ばく露又はその懸念がある場合:医師に連絡すること。

気分が悪いときは医師の手当てを受けること。

漏出物を回収すること。

[保管] : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。  
施錠して保管すること。

[廃棄] : 内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

上記で記載がない危険有害性は分類できない、分類対象外または区分外。

### 3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 化学物質  
 化学名(又は一般名) : パラコート  
 別名 : 1,1'-ジメチル-4,4'-ビピリジン-1,1'-ジウム=ジクロリド、パラコートジクロリド、1,1'-ジメチル-4,4'-ビピリジニウム=ジクロリド  
 含有率 : 100%  
 化学式または構造式 : C<sub>12</sub>H<sub>14</sub>Cl<sub>2</sub>N<sub>2</sub>  
 分子量 : 257.2  
 官報公示整理番号 : 5-3722  
 CAS No. : 1910-42-5  
 危険有害成分 : パラコート

### 4 応急措置

吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢を保つこと。患者が本物質を吸入した場合は、接触による人工呼吸は行わず、ポケットマスクなどの補助具を使用すること。医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合 : 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。  
接触した箇所は丁寧に石鹼と大量の水で洗い流す。医師の手当てを受けること。

目に入った場合 : 眼をこすらず、直ちにコンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。医師の手当てを受けること。

飲み込んだ場合 : 直ちに医師の手当てを受ける。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。嘔吐が生じた際には、頭を低く保ち、吐瀉物の肺への誤嚥を防ぐこと。本物質を含んで嘔吐した場合は、接触による人工呼吸は行わないこと。

暴露した場合 : 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状 : 刺痛、涙目、赤目、腫れ、かすみ目、皮膚刺激などを生じる。発赤と痛みの原因となる。長期暴露は、慢性的な影響を引き起こす。

応急措置をする者の保護 : 火気に注意する。適切な保護具を着用する。

### 5 火災時の措置

消火剤 : 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素

使ってはならない消火剤 : 棒状注水

火災時の特有危険有害性 : 火災時に刺激性もしくは有害なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。

特有の消火方法 : 移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。

消火を行う者の保護 : 燃焼又は高温により有害なガスが発生するので、呼吸保護具を着用する。

## 6 漏出時の措置

## 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

: 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、粉塵等が皮膚に付着したり、吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。

## 環境に対する注意事項

: 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

## 回収・中和

: 適切な保護具をつけて処理すること。漏洩物は掃き集めて空容器に回収し、適切に処分すること。

## 7 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

## 技術的対策

: 屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。

## 安全取扱注意事項

: 容器を転倒させ落させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵を発生させない。保護具を着用し、衣服、皮膚や眼への接触を防ぐこと。使用後は容器を密閉する。

## 衛生対策

: 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

## 保管

## 適切な保管条件

: 換気の良い涼しい場所で容器を密閉し施錠して保管する。

## 技術的対策

: 混触危険物質との接触を避けること。

## 混触危険物質

: 強酸化剤

## 安全な容器包装材料

: 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8 ばく露防止措置

## 設備対策

: 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、局所排気装置を設置する。取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

管理濃度 作業環境評価基準 : 設定されていない

## 許容濃度

日本産業衛生学会勧告値 : 設定されていない

ACGIH TLV-STEL : 0.1mg/m<sup>3</sup>(吸入)、0.5mg/m<sup>3</sup>(パラコートとして)

OSHA PEL : 0.5mg/m<sup>3</sup>

## 保護具

## 呼吸器の保護具

: 防毒マスク、空気呼吸器、又は酸素呼吸器

## 手の保護具

: 薬品耐性のある保護手袋

## 目の保護具

: 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

## 皮膚及び身体の保護具

: 保護衣・保護長靴

## 適切な衛生対策

: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。

## 9 物理的及び化学的性質

## 形状

: 固体(結晶性)

## 色

: 無色

## 臭い

: データなし

## pH

: データなし

## 融点

: データなし

## 沸点

: データなし

## 引火点

: データなし

## 爆発範囲

: データなし

## 蒸気圧

: <0.01mPa(25°C)

蒸気密度(空気=1)	: データなし
比重	: 1.5(25°C,推定値)
溶解性	: 水に溶解する(620g/L)
n-オクタノール／水分配係数log Po/w	: -4.2
自然発火温度	: データなし
分解温度	: 340°C(推定値)

## 1 0 安定性及び反応性

化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の使用、保存、輸送条件下では安定。
避けるべき条件	: 混触危険物質との接触、高温
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: データなし

## 1 1 有害性情報

急性毒性(経口)	: 雄ラット LD50=223mg/kg(農薬抄録,1991)
急性毒性(経皮)	: 雌ラット LD50=79mg/kg(農薬抄録,1991)
急性毒性(吸入)	: ラット LC50=0.00084mg/L(農薬抄録,1991)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 20%パラコート液剤(水の他に数種の添加剤を含む)を適用したウサギの試験で「中程度の刺激性が見られた」「農薬製剤のラット等の急性経被毒性試験で発赤及び痂皮形成が見られた」との記述がある(農薬抄録,1991)。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

: 20%パラコート液剤(水の他に数種の添加剤を含む)を適用したウサギの試験で「中程度の刺激性が見られ、9日間の観察期間終了時にも完全に回復しなかった」との結果がある(農薬抄録,1991)。

呼吸器感作性

: データなし

皮膚感作性

: モルモットを用いたMaximization法により感作性が認められなかったとの記述がある(農薬抄録,2004)。

生殖細胞変異原性

: 体細胞を用いるin vivo変異原性試験で陰性報告が3例あるほか、in vivo肝UDS試験も陰性であった(農薬登録,1991)。

発がん性

: ラット及びマウスの発がん性試験では、本物質に関連する腫瘍性病変は認められなかったとの記述がある(農薬登録,1991)。なお、IRIS(1993)ではCに分類されている。

生殖毒性

: ラットの三世代生殖毒性試験、ラット・マウスの催奇形性試験では、本物質に関連する明確な影響は認められなかったとの記載がある(農薬登録,1991)。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: ラットの急性毒性試験において暴露経路によらず肺への影響が見られること、ヒトの事故例で肺の他に腎臓、肝臓への影響の記載がある(農薬登録(1991),ACGIH(7th,2001))。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

: ラットの反復ばく露試験(混餌投与)では本物質の投与に関する肺の病変が認められたとの記載がある(農薬登録,1991)。

吸引性呼吸器有害性

: データなし

## 1 2 環境影響情報

水生環境有害性(急性)	: 藻類類(緑藻) ErC50=0.6mg/L,96h(農薬登録申請資料,2004)
水生環境有害性(長期間)	: 急性毒性が区分1で、生物蓄積性は低い(BCF=0.3,既存点検)が、急速分解性がない(BOD=0%,既存点検)。
残留性/分解性	: BOD=0%で急速分解性はない(既存点検)
生態蓄積性	: BCF=0.3で蓄積性は低い(既存点検)
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への影響	: 本化学物質はオゾン層破壊物質に該当しない。

---

1 3	廃棄上の注意	
	残余廃棄物	: 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
	汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

---

1 4	輸送上の注意	
	国連番号	: 2781
	品名	: ビピリジリウム系殺虫殺菌剤類(固体)(毒性のもの)(パラコート)
	国連分類	: クラス6.1(毒物)
	容器等級	: III
	海洋汚染物質	: 該当
	注意事項	: 運搬に際しては、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にし関係法規に定めるところに従う。

---

1 5	適用法令	
	毒物及び劇物取締法	: 指定令 第1条 毒物 No.15-2
	労働安全衛生法	: 施行令 第18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物 別表第9 No.296 施行令 第18条の2 名称等を通知すべき危険物及び有害物 別表第9 No.296
	化学物質排出把握管理促進法	: 第一種指定化学物質 No.227
	化審法	: 非該当
	消防法	: 非該当
	船舶安全法(危規則)	: 毒物類
	航空法	: 毒物類
	海洋汚染防止法	: 非該当
	大気汚染防止法	: 非該当
	水質汚濁防止法	: 非該当
	土壤汚染対策法	: 非該当

---

1 6	その他の情報	
	引用文献等	
		化学品安全管理データブック 化学工業日報社 16514の化学商品 化学工業日報社(2014) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP) 航空危険物規則書 第52版邦訳 等・他

## 記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。